

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和2年1月25日現在

今月の重点活動

■飛騨名農会 冬季セミナーを開催

1月20日（月）に高山市役所において、飛騨名農会会員および関係者26名が参加して冬季セミナーが開かれた。最初に高殿県議から「岐阜県の農業、飛騨の農業に関する取り組みと課題、今後の展開について」と題し、さらなるブランド化や普及指導員への期待等について講演をいただいた。

その後、情報提供として、ほうれんそうの調製機導入効果・共同調製作業場実証や、人材確保のためのワーキングホリデー・外国人の受け入れについて県（農業普及課・農産園芸課）、高山市、JAから報告を行い、各機関における取組状況について理解が深められた。

農業普及課では、引き続き飛騨名農会の組織活動を支援し、産地の維持・発展にも積極的に取り組んでいく。



【値打ちを付けて消費拡大！】

多様な担い手づくり

■担い手 青年等就農計画審査会を実施（高山市・飛騨市）～認定新規就農者の認定～

高山市（1月27日）及び飛騨市（1月8日）で、就農後5年間の経営計画を立てて農業を開始する新規就農者の青年等就農計画の審査会が開催された。

審査会では高山市8名、飛騨市2名が自ら作成した計画をもとに、将来の農業経営の構想等について説明を行い、支援機関（各市、JAひだ、農林事務所）職員が審査員として就農意欲、計画の実現性、経営の方向性等を確認した。

農業普及課では、自主性を尊重した就農計画の作成について支援を行ってきたが、新規就農者が経営開始後早期に栽培技術、経営管理能力を習得できるように継続して支援を行っていく。



【将来の夢を語る研修生】

■新規就農 青年農業士・先輩農業者からトマト・しいたけ等の経営を学ぶ

1月16日（木）、飛騨及び下呂管内の長期研修生及び新規就農者を対象に「飛騨就農支援塾トマトコース」を開催した。

今回は「青年農業士・先輩農業者から学ぶ」をテーマに午前には青年農業士を講師としたトマト経営に関する考え方や工夫（面積、経費、作業効率、雇用など）について講義が行われた。午後はトマト生産者のしいたけ栽培による複合経営事例として高山市の農家を視察した。先輩農家から具体的な話を聞けるということで、受講者から「非雇用者の賃金をどう決めているのか」「栽培品目や品種はどう検討しているか」など熱心な質問があった。

農業普及課では引き続き、新規就農者の経営開始並びに早期経営安定に向けて支援を行っていく。



【トマト経営に関する質問に答える青年農業士】

■女性農業経営アドバイザー飛驒ブロック 冬季研修会を開催

女性農業経営アドバイザー飛驒ブロックは、農村女性の資質向上および、相互の連絡・協調を図りながら地域農業の発展に寄与することを目的として活動している。

1月20日（月）に冬季研修会では、地産地消を更に推進するために、飛驒の食材にこだわった料理教室を開催した。全会員のうち14名が出席し、飛驒産の米粉やトマトケチャップ、ほうれんそうペーストなどを使用してシフォンケーキ、ピザを作成した。参加者からは、地元の素材が活かされていてとてもおいしかった、めずらしい味つけでおいしかったなど、飛驒産食材の魅力を再発見している様子がうかがえた。

農業普及課では、今後も有意義な活動を実施するために、研修会の運営支援や活動内容の提案などを行う。



【熱心に説明を聞く参加者】

売れるブランドづくり

■イネWCS 生産振興に向けて意見交換会を開催

令和2年度より中山間農業研究所がイネWCSの栽培試験を開始するにあたり、イネWCSに関する意見交換会が1月14日（火）に開催された。中山間農業研究所のほか、生産者の代表として大規模生産法人、農業経営課の農業革新支援専門員、及び農業普及課が参加し意見交換が行われた。

当日は、大規模生産法人からイネWCS栽培の現状が説明され、品種選定による作業体系の構築や飼料品質の確保など、生産者が抱える技術的な問題点について解決策が話し合われた。

農業普及課では、今後も中山間農業研究所や農業経営課と協力して栽培上の課題解決を支援し、イネWCSの生産振興を推進する。



【活発な意見交換会】

■水稲 飛驒産米改良対策会議を開催

12月20日（金）にJAひだ本店において、今年度の水稲の生育状況等振り返り、飛驒産米改良対策会議が開催された。対策会議のメンバーは、飛驒・下呂農林事務所、中山間農業研究所等の県関係機関、JAひだの営農対策室・米穀課・営農センター他、農業共済、全農岐阜飛驒駐在、飛驒農業振興会の計24名で構成されている。

今回の会議では、各機関から水稲の生育状況や食味向上実証ほ等の結果報告と今年度の問題等次年度の栽培に向けた検討を行った。また、今年度の実証ほの中から、米の食味官能評価を実施し、測定機器と合わせた実証結果の評価を予定している。

農業普及課では、今後も中山間農業研究所や下呂農林事務所と協力し、JAひだが進める美味しいお米づくりによる飛驒産米のブランド化を支援していく。



【おいしい米づくりに向けて】

■夏秋トマト 飛驒野菜出荷組合トマト部会員を対象とした個別面談を実施

農業普及課では、JAひだの営農指導員と連携し、管内のトマト部会員全員（331名）を対象に個別面談を実施した。

個別面談では、本年度栽培を振り返るとともに、部会員の栽培状況や個別事情に応じて次年度の改善事項を協議した。

本年度は夏期の集中出荷により栽培管理が不十分となり、秋期の出荷量低下に結び付いたことから、その対応について協議する事例が多くあった。また、新品種の導入や収量維持向上対策等が主な協議内容となった。

生産者の中には多くの質問事項を準備して個別面談に臨まれる方もおられ、関係機関から適切な助言を行った。



【個別面談実施状況】

■ほうれんそう 調製機の導入効果について検討

今年度、農業普及課では新型調製機（クボタ NC301）を導入した生産者3戸を対象に、機械の導入前後の作業量や配置等について現地調査を行った（次世代につながる営農体系確立支援事業）。

1月9日（木）には調査結果をもとに、生産者、JA、市等関係機関で導入効果について検討会を開催した。生産者からは「パートも高齢化してきており、能力が低下してきたら機械を入れた方が良い」「作業後に機械の掃除がしやすいよう取り外しがもっと簡単にできないか」などの意見が出された。当日は機械メーカーにも出席してもらい機械の改良についても要望した。

現在、飛驒管内には新型調製機が13台導入されている。農業普及課では、今後も情報収集・調査を進め、ほうれんそうの調制作業の効率化・省力化につながる対応策を提案していく。



【メーカーも交えて意見交換】

■宿働かぼちゃ 冬期栽培研修会を開催！

宿働かぼちゃ研究会は、飛驒及び下呂地域の宿働かぼちゃ栽培者187名で組織されている。研究会主催による冬期栽培研修会が1月16日（木）に高山市丹生川支所で開催された。

本年度は出荷量が前年比で約3割の増加となったものの、梅雨期間が長引いたこと等により、腐敗果の発生が多かった。また、早期出荷を目指したが、晩霜による被害も発生した。このため、腐敗果対策、定植時の保温資材等について農業普及課、JA営農指導員、研究会員から話題提供を行った。

農業普及課では、次年度も地区別栽培研修会や個別巡回における栽培管理指導や、行事等への参画により宿働かぼちゃ研究会の活動支援を行っていく。



【あいさつする研究会長】

住みよい農村づくり

■上宝町長倉地区 サル出没マップ作製で、減らすぞサル害

今年度高山市朝日町秋神地区で大型囲いわなの導入・住民による運用を全面支援したことによって、被害が拡大していたダイコンの被害を、昨年の1/10以下に減らすことに成功した。そこで、今年、高山市上宝町長倉地区では約1haのリンゴ園の果実がサルの食害で全滅するなど、大きな被害があった。高山市上宝町長倉地区でも果樹園から離れてサルの出没が多い場所に大型囲いわなを設置して被害を減らすこととした。

今後、農業普及課では、朝日町での1年間の現場の運用経験を活かし、地域のリーダーによるサル出没マップの作製を指導していく。果樹園から離れてサルの出没が多い場所に大型囲いわなを設置していく。

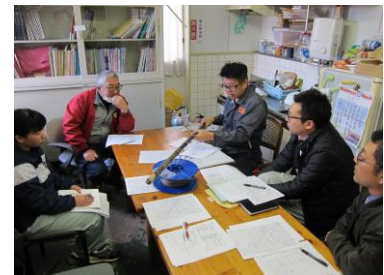


【この地域守ります！】

■果樹 果樹園における獣害対策

今年度、果樹生産においてクマの食害、枝折れなどのクマの被害が多かった。クマは7月のモモの収穫前からリンゴの収穫終了時期まで、園地に侵入の形跡があった。このままではいけないと急遽、来年度よりクマの侵入防止強化として電気柵の変更をすることとした。そのため1月10日（金）に、園主から今年度の被害について聞き、その後電気柵メーカーからクマに効果的な電気柵の張り方について説明を受けた。今後具体的な案をもとに来年度に向けて検討を行っていく。

今後農業普及課では、市役所や農業振興課と連携し、来年度のクマ害が減少するよう具体的な案を提案しながら支援していく。



【メーカーとの打合せ】